

第3回「第4期南砺市地域福祉計画」策定委員会 議事概要

1. 日時 令和8年8月20日（木）14:00～15:25

2. 場所 南砺市地域包括ケアセンター2階 多目的会議室

3. 出席者

南砺市社会福祉協議会 会長	中山 繁實
社会福祉法人マーシ園 法人本部事務局長	山田 浩司
特別養護老人ホーム福寿園 施設長	吉田 孝幸
南砺市地域づくり協議会連合会 理事	戸成 博宣
南砺市シニアクラブ連合会 女性副会長	廣瀬 恵美子
男女共同参画推進員南砺市連絡会 代表	佐竹 弘昭
南砺市身体障害者協会 会長	藤井 千悦
南砺市手をつなぐ育成会 会計	奥村 雄一
南砺市ボランティア連絡協議会	山下 文子
公募委員	傍田 裕子

欠席者

富山福祉短期大学 教授	鷹西 恒
NPO法人南砺市医師会 理事	松 智彦
南砺市民生委員児童委員協議会 会長	得能 金市
公募委員	長田 唯似
公募委員	古瀬 陽子

事務局

南砺市地域包括医療ケア部 部長	松岩
南砺市福祉課 課長	高見
南砺市福祉課 社会福祉係長	得能
南砺市福祉課 社会福祉係 主任	小室
南砺市福祉課 社会福祉係 主任	中上
南砺市福祉課 社会福祉係 主任	竹田

関係課長

南砺市地域包括ケア課 課長	大橋
南砺市健康課 課長	金兵
南砺市こども課 課長	山田
地域包括支援センター センター長(代理)	斎藤
南砺市社会福祉協議会 課長	村澤

4. 議事

福祉課長： 本日は委員14名中10名に出席いただいております。委員会は成立しています。第1回策定員会から年度が替わって、社会福祉法人マーシ園の式部委員が退任され、社会福祉法人マーシ園の山田委員に就任いただきました。

(1)「第3期南砺市地域福祉計画」評価について

事務局より説明…資料1（資料1－2 計画に関する指標・数値目標）

委員：資料5ページ「＜子育て家庭の環境の整備＞ 職業生活と家族生活の両立」について、具体的にはどのような施策を行っているのか。

事務局：子育て世帯が子育てしやすい環境を整えるということで、多様化する保育ニーズに対応するよう、延長保育や休日保育、乳児保育、一時預かりのサービスを多様化させてきている。また、平成29年度から「なんと！優しい子育て応援企業」の認定制度を始めており、子育てしやすい企業であるということを企業自らPRしていただき、取り組みを進めている。

委員：先日出席した未来創造課の公共交通関係の会合において、子どもの送迎について新たな施策を行うと話しておられた。高市首相は子どもたちの送迎に関して、現役世代の女性に頼るケースが多く見られると述べられている。職業生活と家庭生活の両立に向けて、交通手段の拡充についてもこの部局で考えていただいているかどうか。

事務局：資料6ページに「＜使いやすい公共バスルート等の整備＞市営バスの利便性向上」という施策がある。

委員：是非とも、より一層の拡充をお願いします。

(2)「第4期南砺市地域福祉計画」骨子（案）について

事務局より説明…資料2－1、資料2－2（骨子新旧対照表、施策体系（案））

委員長：「再犯防止推進計画」や「成年後見制度利用促進基本計画」等も第3期計画内に取り込んであったが、それらの計画は第2次計画として第4期計画内で策定する予定か。

事務局：第3期と同様に、地域福祉計画の中に盛り込む形になる。内容の方は現在検討しているので、次回10月の策定委員会でより詳しく皆さんに提示したいと思う。

委員：資料13ページ「2. 社会・地域活動への参加の促進」の中の「(5)地域交流拠点の整備と活動促進」については、具体的には何を意味しているのか。地域

づくり協議会との連携、あるいは交流センターを拠点とするという考えが含まれているように思われるが、いかがか。

事務局：高齢者サロンや地域づくり協議会の通所型サービスなど、地域での支え合いの強化や高齢者の社会参加の促進という事業をやっている。

委員：資料 13 ページ「2. 地域で支えあう仕組みづくり」の中の「(2)地域福祉に関わる団体間の連携強化」について、「団体」というのは具体的にはどんなものを念頭に置いておられるのか。

社協課長：現在は社会福祉協議会の方で、生活支援コーディネーターを配置している。生活支援コーディネーターが、個別のケースで生活に困りごとのある方を地域のさまざまな支援と結びつけて生活を支えるコーディネートをしている。地域づくり協議会、ボランティア団体、各種団体と中央行政の方が必要な時に連携し、その人の生活を最終的に支援するという目的で、地域の皆さんとつながっていくということに取り組んでいる。

委員：南砺市では「まちづくり基本条例」というものがあるので、ぜひ様々な分野の行政当局、地域団体と協働で進めていただければ、と思う。

委員長：前回の会議でも出ていたが、ヤングケアラー、ダブルケア、引きこもりなどの複雑な課題に対して統計をふまえて、それに対応するための具体的施策が必要だ。

委員：制度のはざまにある方に対する支援活動を 5 年間やってきたが、引きこもり当事者とはなかなか会えないところから始まった。非常に時間のかかる支援が多かったような気がする。2 年間モデル事業にやってきたが、その間当事者に会えたケースはほとんどなかった。事業を始めて 3～4 年目になってようやく当事者に会えるようになり、少しずつ支援が進んできた。市や福祉課と連携しながら進めているのが実態だ。長い目で見ないと、引きこもりは今日明日でうまくいくという問題ではないと実感している。地域の皆さんとも協力しながらやっていかないといけない。

委員長：難しい問題だと思うが、気長に続けていくことが必要になると思う。努力されていることもあるので、そのあたりも計画の中に盛り込んでいくべきと感じる。

(3)「第 4 期南砺市地域福祉計画」素案（第 1～3 部）について

事務局より説明…資料（計画素案 第1～3部）

委員長代理：「5年間の増減」の数値について、最初と最後の数字を比べるのではなく、たとえば資料50ページにある「DVに関する相談件数」であれば、一番少ない令和7年の34件を、一番多い令和5年の81件と差し引きしないといけないと思う。

事務局：他の市も参考にして、見直しさせていただく。

福祉課長：成年後見制度は社会福祉法の見直しということで、国会の方で結論が出た。現在の成年後見制度において後見人、補佐人、補助人という形で分かれているものは、今回の法改正で補助人に統一される。計画策定のタイミングで制度そのものが変わるので、どういうふうな形で表現していくかは国の方からの情報提供を待ってからになると思う。後見人は権限が強く、後見人を交代させたり、辞めさせたりできないという問題があり、見直しがかかっている。そのあたりも含めた形で、今後の計画策定に反映したい。

委員長：施策の指標としては、相談件数がいいのか、結果的に制度の利用に結びついた件数がいいのか、意味のある数字を提示していただければと思う。

委員：成年後見制度については、申立ての流れについての情報も掲載するとよいのでは。一般住民には、どこの窓口で何を相談すれば、申立てする親族がない場合などに親族に代わり市長が申立てを行う制度（市長申立て）につながるのかがわからない。

地域包括支援センター長代理：

成年後見制度は複雑な流れの中で動いていたり、関わる人がとても多かったりということで、なかなか理解が進まない制度の1つではないかとかねてから考えている。これまでの取り組みとして、成年後見制度を知りたいということであれば、各種団体に出向いて説明したり、講師を派遣したりしている。しかし、なかなか住民には届いていないという指摘があったので、見直しをこれから検討できればと思う。

委員長：資料25ページ「地域福祉を進めるうえでの「圏域」の捉え方」について、前回計画には「旧町村」があったが、それは残しておくべきではないか。消した理由はあるのか。

事務局：他の市をいくつか参考にし、旧町村という圏域はあえて外させていただいた。ただ、このような意見ももちろん皆さんにあるかと思うので、他の委員の方からも意見を伺いたい。

福祉課長：合併して 20 年を超えたということもあり、旧町村の枠組みをどう扱うかという話は当然あると思う。31 の地域づくり協議会があるが、旧町村の枠を超えてできた協議会はない。地域づくり協議会が旧町村単位でまとまって活動されることもあると思うので、今回から旧町村は外した。現在ある旧町村単位の活動を決して否定するものではない

委員長：行政としては、そういう方向で考えているのだと思う。その他、委員より一言ずつ意見を頂戴したい。

委員：成年後見制度などについて実際にやってみたことを発信する勉強会を行っている。裁判所での対応などかなり具体的な細かい事までやってきたており、これからもそういった活動を続けていきたい。

委員：ボランティアの協議会に加わっているが、個人情報保護の観点から一人暮らし高齢者の適切な情報が入らなくなった。せっかく老人会、赤十字、民生委員といったいろんな団体が家庭訪問をやっているので、情報をより効率的に取得できる方法が必要だ。また年度の初めに訪問が集中しないよう、年間を通して均等に訪問したい。各団体との連携は公的なところが主導してほしい。

委員：人口減少や高齢化をカバーできるだけの地域福祉計画になっていけばよい。県外へ進学した子どもたちが戻ってくるには、下支えする施策が必要だ。ぜひこの第 4 期計画は追加分を含め目標を立てて終わるのでなく、実施されればよいと思う。

委員：資料 9 ページ「17. 生活相談支援窓口の新規相談件数」の計画目標 80 件に対し、実績 58 件で「×」という表現がある。数値的な傾向として捉えることは理解できるが、違和感がある。就職できる可能性のある方の職業訓練の委託を受けているが、最近はやっていない。支援が必要ないほど豊かになったのか、窓口を知らないのか。件数が減ったということは、困っている人が減って豊かになったのでは、という誤解を生む可能性がある。

委員：資料 9 ページ「27. ボランティア活動に参加している市民の割合」が 30% もないというのは、少し残念だと感じる。今後こういった形で参加していただけるか、考えていかなくてはいけない。

委員：ケアネットで訪問支援をしているが、親が亡くなって知的障害のある子が一人暮らしをしているというケースが多くある。訪問しても出てこない。民生委員に相談しても、どこまで関わって良いのかわからないケースが、自分の地域でも 3 ～ 4 件ある。「取り残しのない支援」と書いてあるが、実際現

場に立てば取り残しばかりなのではと、少し疑問に感じた。

委員： 南砺市の人口推計で、年少人口が非常に少なくなっていくということを残念に思う。若年層や若い女性が好んで南砺市に帰ってくるような施策を地域福祉計画を通して行うことができれば、これを食い止めることができるのではないか。この地域福祉計画を、人口を増やす、もしくは人口減少を抑えるという観点から作ることができればよいと思う。

委員長： 委員の方からあった話の中で、事務局として回答できるのであればお願いしたい。

福祉課長： 指標についての指摘があった。相談件数が増えたことについて「○」をつけるのはどうか、という意見があったので、他の市や自治体の状況も考えて検討していきたい。ボランティア活動の参加人数が減ったという指摘もあったが、コロナ禍の影響があって自粛期間が何年か続いた後、縮小したままという形が続いていると思う。社協や地域づくり協議会等と連携してもう一度盛り上げていきたい。計画を作るのは大変だが、それよりも福祉を進めていくことを重点に考えていきたい。「5年間の増減」については、「5年前との比較」という表現に変えたいと思う。

委員長代理： 地域づくり協議会の方々と話をすると、「会長を辞めたいが、次の担い手がない」「各種議員の推薦があっても、「70歳まで勤めるので無理」等の理由で担い手がない」という話が必ず出る。地域コミュニティの希薄化や地域活動の参加率低下が、よく話題にあがる。また、「災害対策をきちんとしなくてはいけない」という話も必ず出る。高齢者福祉と子育て支援を両輪とするという話があったが、地域特性に応じた福祉サービスの充実、災害に強い地域づくりに向けて、この第4期地域福祉計画を策定していかななくてはならないことを今日の委員会に出席して再確認した。委員の皆様には、今後ともよろしくお願いしたい。

福祉課長： 本日の意見を次回の策定委員会に反映できるよう、これから検討していく。以上をもって、第3回策定委員会を終了する。